

えっ！もうこの時季に・・・



札幌報恩学園 園長 竹村 義文



移り行く季節の中、時の流れが年々早く感じるようになってきました。皆様におかれましては札幌報恩学園の運営に際し、日頃よりご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。時間だけはみな平等であるはずなのですが、今年度も後半戦に入り、この調子でいくとあっという間に冬になり、雪解けがやってくる気さえてきます。

この半年を振り返ってみますと、法人としては「第2回楽レク大会」、9月の「報恩まつり 2025」と予定していたイベントが大盛況でした。天候で8割決まるといわれている屋外行事ですが、参加された方々のご協力はもとより、職員で組織した実行委員の企画と準備の賜物でもあると自負しております。長く継続する意味や秘訣がそこにあるようにも思えました。

さて先日、札幌市障害福祉課の指導監査がありました。入所施設の指導監査は第1種事業ということで定期的に行われ、主幹となる行政が施設運営についてチェックをしていくものとなります。利用者様の支援状況、請求業務、金銭処理のほか、従業者労務や業務管理体制の適正化が図られているかなどについて調べられます。組織におけるガバナンス、各プロセスについての整備が近年これまで以上に求められるようになりました。指導監査終了後、重大な指摘事項に抵触するところはなく少しほっとしたところではありますが、これからも法令遵守のもと、安定運営に向けた舵取りができるようにと思っております。

物価高騰や今後の障害福祉の在り方など、先行きが見通しにくい中、心配ごとは尽きません。「往を彰らかにして来を察す」先を読み、軸足を定め予測への備えをしていきたいと思います。時の流れを意識して・・・

沢山の笑顔

札幌報恩学園 支援課長 荒谷 賢延子

暑い夏も過ぎ去り、朝晩は寒いと感じるようになりました。少しずつ秋の気配を感じています。敷地内の栗の木にも大きな実がなりエゾリスも栗拾いに大忙しです。札幌報恩会の一大イベントである報恩まつりも、晴天の中たくさんの笑顔に囲まれ無事終了する事が出来ました。保育園や地域の子供たちの姿もたくさん見られ、地域とのつながりを感じています。

今年度、ポピーから事務所に異動になり半年がたちました。3年前にも事務所にいましたが、3年経つとすべてがリセットされ、自分が札幌報恩学園の利用者様の平均年齢50.5歳を超える年齢になり、年齢も相まって仕事を覚えるのに時間がかかり、あっという間に1日が終わってしまいます。そんな中、事務所前にジュースを買いに来る利用者様との挨拶や笑顔に元気をもらっています。今年度から月2回、ローソンの移動販売が始まり、学園内で買い物できる機会が出来、利用者様も楽しそうに商品を選んでいきます。楽しいことが沢山、体験・経験できるように支援していきたいと思っています。

